

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

周囲に感謝の大学ライフ

1. 超多忙な学生生活

大学生活の2年間は、仕事、勉強、家事に追われて毎日が目まぐるしく、今までの私の人生の中で最も忙しいものでした。仕事量は変わらない中で、レポートをまとめる時間を捻出することが何よりも大変でした。

レポートは、仕事から帰った後、あまりの疲れに少し仮眠をとってから朝まで書いて、そのまま出勤したり、締切前日に速達で提出したりなどは数えきれない程ありました。休みの日に複数まとめて作成することも多かったです。震災後しばらくは取り組む気が起きず、全く手をつけない時期もありましたが、最後の半年は怒涛のごとく残りのレポートを提出しました。

科目修了試験の勉強は、レポート課題と過去問の答えを自分なりに簡単にまとめたものを試験1週間前に作成して、あとは毎晩お風呂に浸かりながらポイントを暗記したのみです。解答の長さより、ポイントを如何に捉えるかが大切だと思いました。

スクーリングに関しては、職免で出席させてもらえたため、仕事の都合がつく限り関東だけでなく仙台でも受講しました。最終日にテストがあるので気は抜けませんが、今思えば、あのテストのお陰で学んだことを確認できたと思います。また、同じ苦勞をしている仲間と意見交換ができる貴重な時間でもありました。だから、スクーリングの受講は絶対にお勧めしたいです。自分一人で勉強するより何倍も理解が深まります。

2. 社会福祉士国家試験の勉強

正直合格したことに自分が一番驚いています。試験の2週間前までレポートに追われていたり、最後の最後でスクーリング試験の不合格があったりと、卒業すらギリギリの状態だったので、何ヶ月も前から国家試験の勉強に集中することはできず、夜勤のない日など空いた時間に、過去問2年分を満点が取れるまで繰り返し解くという勉強が中心でした。中央法規の「暗記ブック」だけは3ヶ月位前に購入し、科目修了試験の勉強がない時などに、これもまたお風呂や仕事の休憩時間に眺めていました。眠気で本ごと湯船に漬けてしまったことも何度かありましたが…。

これらのことから、時間がない場合はあまり手を広げずに、できることだけを完璧にすることの方が有効であると実感しました。

3. 卒業にあたり

先日、仙台での卒業式に出席しました。友人が仙台で卒業を祝ってくれるとのことで、旅行を兼ねて東京からの参加でした。私は高校、短大、専門学校と卒業しましたが、10年以上ぶりのこの卒業式は、とても思い出に残る大切な一日となりました。2年間の苦労を思い起こし、感無量でした。

この2年間は、今までで一番勉強し、睡眠時間も削った日々であり、本当に大変でしたが、意を決して大学に編入して良かったと、今心から思っています。特別養護老人ホームで利用者やご家族と接する中で、法律や社会の動き、福祉の知識の必要性を感じたことが、勉強をしたいと思っただけきっかけでした。実際、大学での勉強によって、様々な知識を得たことは言うまでもありませんが、幅広い分野を多角的に学んだことで、広い視野や柔軟な考え方が身についたと思います。さらに、物事を考える際に、根

拠となることを明らかにして伝えることの大切さを学びました。私が福祉の仕事をはじめた10年前に比べると、福祉の現場の状況は大きく変わってきていると感じます。マスメディアなどからの情報が溢れ、知識を持った利用者やご家族に、法律や社会の動きを踏まえて根拠のある分かりやすい説明をすることや対応を考えることは、これからもっと必要とされると思います。そんな福祉の現場に携わる中で、大学で学んだことを活かしていきたいと思っています。

そして何より、無事に卒業し国家試験に合格できたのは、職場の上司や家族の理解と協力があつたからであると改めて思います。支えてくれた人達への感謝の気持ちを忘れず、これからは恩返しができるように、仕事も家庭も大切に過ごしていきたいと思っています。

4. これから学習される方へ

私の大学での学習は、レポート提出はいつも必着日で、再提出や再試験もあったので、決して優秀なものではなかったと思います。国家試験に至っても合格ラインギリギリで受かったので、これから学習する方たちの参考になるようなことは、あまりないかもしれません。ただ、自分が卒業と国家試験に合格できたのは何故か考えた時、二つだけ大切にしていたことがあります。

一つ目は、最後まで諦めないことです。卒業も国家試験もです。人間追い詰められると頑張れるものです。決して最後まで、レポート締切の前日まで、試験の前日まで諦めないでください。

二つ目は、勉強はだらだらと長引かせないこと。卒業も国家試験の勉強も、2年なら2年、4年なら4年で終わらせると決めたら、そこから逆算して計画を立てて勉強することが大切だと思います。たとえ計画通りに進まなくても、やれる時にやって期間内に終わらせれば良いのです。私の場

合、2年間のレポート、スクーリング、科目修了試験の勉強が結果的に国家試験対策にもなったのだと思っています。短期集中で、お風呂の時間さえ有効に使いました。お風呂はリラックスしたいと考えるか、その分早く寝ることを取るのかは色々な考えがあると思いますが。

最後に、電話やメールで度々色々な質問や相談をした際に、親身に応えてくださった先生やスタッフの方々に、心から感謝をしています。2年間本当にありがとうございました。

学習をしていて楽しかったこと

3月卒業者のアンケートより「学習をしていて楽しかったこと」への回答を抜粋してみました（卒業生アンケートは8部やp. 26, 38にも掲載されています）。

■学習をしていて楽しかった（面白かった）ことは何ですか？

- ・福祉を学術として体系づけていることが授業であると理解できたとき、楽しい気持ちになりました。
- ・実際の現場において、身に付けた技術や知識が役に立ったこと。
- ・福祉が政治や経済体制と深く関連していることがわかった。学問として成立するには、「理論の確立」が必要であり、比較的新しい分野だと思っていた福祉でもいろいろな理論があることに気が付いて驚いた。
- ・レポートの意味さえ理解できず、自分には不可能だと思っていたも、図書館で少しずつ資料とテキストを読み、理解できたと実感した瞬間幸福感に包まれました。
- ・私は「社会福祉原論」の田中先生のスクーリングで先生が大好きになりました。演習で担当の先生で再度感激しましたが、社会福祉の原点・考え方を教えていただいた気がしました。
- ・福祉を考えるとき、ときに矛盾を感じることもあるが、「100%の正解を求めようとしなくても、AよりBの方が良いといった考え方で良いのだ」と教えていただいたとき、目から鱗が落ちた。
- ・同じ食卓のテーブルで、子どもは宿題、私はレポートやオンデマンドスクーリング等に没頭したこと。
- ・レポートが「優」で戻ってきたとき。
- ・スクーリングで先生方の授業を受けて、実践の中で培ってきたものや悩んでいたこと、視野の狭かったことや考え方に気付いたことが多くあって、本当に学習をしていて楽しかったです。